



幼少年キャンプ研究会カウンセラーユニオンニュースレター

WILDERNESS

〒300-3253茨城県つくば市大曾根3765-4 029-895-3775 info@yoshonencamp.com www.yoshonencamp.com

FORE WORD

キャンプと学び

文科省は平成 20 年より、一週間の「小学校長期自然体験活動」の実現に向けて、年間数億円をかけて、指導者養成事業、プログラム開発事業を進めています。幼少年キャンプ研究会でも、プログラム開発事業に採択されたり、指導者養成事業の講師を行ったりと、事業の一端を担ってきました。

この政策では、学校の先生だけでは大変なので、民間のキャンプ指導者の力を活かそうと、指導者養成にお金と時間が注がれています。ところが、どんなに優秀なキャンプ指導者がたくさん育っても、最大の問題の一つは、学校のカリキュラムにどうやって1週間のキャンプを組み込むかであると感じています。これを解決するためにプログラム開発事業の採択を受けた団体がとった方法の一つが、「教科をキャンプに組み込む」でした。例えば、国語の学習効果を高める（＝時間数を消化する）ための「俳句キャンプ」、自然物を使って理科の実験を行う「サイエンスキャンプ」などなど、各教科とキャンプの専門家が知恵を絞って、政策実現に向けて力を注ぎました。

キャンプは、一つの教科に偏らず、すべての教科、能力を使い、高めるものであると確信しています。ですので、各教科の学びは、キャンプでも実現可能と考えます。ところが、これらのキャンプを見て、違和感を感じるのは、きっと私だけではないと思います。CUのみなさんからは「こんなのキャンプじゃない」という声が間髪入れず聞こえてきそうです。これらの方法では特定の能力（成績）を高めることはできるかもしれませんが、キャンプの大切な特徴である学際性（すべての学びを含む）や全人性（知識だけでなく、感情、行動などのすべてを含む）が失われてしまうかもしれませんね。

幼少年キャンプ研究会が採択を受けたプログラム開発事業では、キャンプの中でも登山が、自己を見つめたり、人間関係を構築したり、環境について考えたりする総合的な学びの場になっているという調査結果を報告しました。また指導者養成事業でも、学校の時間割のようにキャンプを進めるのではなく、一つのプログラムに複数の教科の時間を消化すべきと主張してきました。そして何よりもキャンプで育ったみなさんが、それぞれの道を選び進んでいることこそ、キャンプの学際性の証拠だと思えます。

キャンプは、社会のニーズと共いろいろなかたちになることのできる特性も持っています。そのようなキャンプだからこそ、何が大切なのか、受け継ぐべきものは何なのか、みんなで考え、花山キャンプに向けたと思います。

REPORTS

04月役員会報告

今後変更もありますが、
以下の内容で決定しました。

①7月研修合宿について

以下の概要で標記合宿を計画することが決定。

日程：7月16日～18日

担当：PD 中川佳美

場所：槍・穂高縦走コース予定

②9月研修合宿について

以下の概要で標記合宿を行うことが決定。

内容：キャンプフェスタ参加

日程：9月22日～25日

場所：静岡県朝霧野外活動センター

参加費：2泊3日¥9800（テント泊）

担当：佐藤冬果

備考：9月の研修合宿は9月22日～25日のキャンプフェスタにCUとして参加。

75分間/1セッションの自主企画に企画を出す予定で準備する。

準備会は佐藤が中心に、新メンバーの加入を待って、キャンプフェスタ隊を結成する。NLでの広報に加え、個人的なお誘いも行う。

自主企画締め切り：7月中旬

③サーバー設置について

ACCSにレンタルしているサーバーの容量がすでにいっぱいであり、今後、容量、ML、アカウントを増やす度に料金が発生するため、事務局にサーバーを立ち上げる。今後、WEBサイト、MLの管理、ファイル共有（例えば花山の資料等を各自の端末からサーバーにアクセスしてできる用になる）等を構築する。6月月例会までをメドに岡村が担当する。

④青年ミーティング参加について

9月のキャンプフェスタの一貫として行われる青年ミーティング実行委員に、幼少年キャンプ研究会として佐藤冬果が参画する。



〇5 月例会報告

5月の月例会が5月15日(日)に行われました。
5月の月例会は花山お誘いの発送作業とプログラム企画論を勉強しました。参加者はふゆりん・ばくさん・よっちゃん・やむ・岡ちゃん・りく・ちいぼーの7名。花山発送作業は効率化を考えた透明な封筒に変更したため、2時間程で終わりました。あとは今年の花山キャンプには何人の子供たちが参加してくれるのか楽しみに待つだけです (*^_^*)

その後、ふゆりんが企画してくれたプログラム企画論を行いました。花山キャンプがどのような構成でできあがってきているのか?なぜ、毎年、キャンプの流れは大きく変わらないのか?(変えられるPDがいたら是非変えてほしいがby BAKU)など、理論の勉強をしました。この講義を受けた現キャンパーのりくと岡ちゃんは純粋にキャンプができなくなるのでは!?!というほど、プログラムの構成は様々な理由で出来上がっているのだということがわかる勉強会でした。それを踏まえ、「一週間の花山キャンプを想定し、登山前の2~3日目午前までのプログラム企画」を行いました。2人組に分かれ、タイトル・目的・活動内容について考えました。

まずは「やむ・岡ちゃん」ペア

タイトル：砥沢 v s 白沢 v s 合沢

目的

沢遊びを通して自然を体験し、いいところを見つける地図・コンパスを学び、登山に活かす

活動内容

各班、行きたい沢に行く
食事コンテスト…沢で採ってきた物を使って一品作る
いいところ探し…自分たちの行った沢のいいところを
発表する

指摘 カウンセラーの能力が必要
(それが大丈夫であればOK)

続いて「よっちゃん・りく」ペア

タイトル：リーフギャザリング

目的

花山の自然を知る

活動内容

葉っぱ収集(リストと同じ葉を見つける)
集めた種類の数で順位付け
順位によって食材 GET
夕食メニュー決め
夕食コンテスト
ふりかえり

指摘

- ・ 葉っぱで目的としていることができるのか?
- ・ 葉っぱを探すのに半日もやったら疲れる
(短期集中にするべき)
- ・ 葉っぱの植生調査をするのは専門家でないと無理
- ・ 外発的動機づけは基本的にあまりよくない
- ・ 何が楽しいのかしっかり考えてから企画する

最後に「ふゆりん・ちいぼー」ペア

タイトル：青空☆レストラン

目的

チームビルディング・自然観察

活動内容

2日目 砥沢を上げる
・ 所々にある ASE をやり、食材 GET
・ 食材は3つまで
・ 砥沢の上流付近でビバーク & 夕食出品
3日目 林道を下る
・ 食べたいメニューを自然物で作る
・ 材料を拾いながら帰る
・ 優秀作品メニューはパーティーに採用

指摘

- ・ 活動内容の軸がブレブレ
(何がしたいのかわからない、メインが多すぎ)
- ・ カウンセラーが大変(ASE 設置・ビバーク準備等)
- ・ ビバークがメインなら2日目午前、準備→ビバークへ
- ・ ASE がメインならそれだけで1日プログラムでできる
- ・ 自然物で人工物を作るのはあまり自然がないところでやるもの(ネイチャーゲーム)
- せっかく自然がたくさんあるのなら自然を活かす



<まとめ>

- ・ 企画を作成するときキャンパーの能力を考えてプログラムをつくる。
- ・ プログラムは詰め込みすぎない
- ・ シンプルで中身が濃いものにする
- ・ 大きな一本軸を決めて流れを作っていく
- ・ 1つのものへの集中力は短時間と考える
- ・ 部分のプログラムの流れと全体のプログラムの流れを考慮して考える



企画を作成することは本当に大変だなと思いました。その一方、スポーツなどと一緒である適度の素質が必要なのかなと感じました。キャンプをあまり経験したことのないよっちゃんなので、アイデアがまったく浮かばず、出てきたアイデアも自然というより、人工物での楽しさというものが多かったです。これは私自身の「楽しさ」という概念が現代っ子ということを表しているのではないのでしょうか？素質がないのなら、努力で埋めるまでです。自然物での楽しさをもっと知るためにより多く自然と触れ合う&情報を仕入れていけばいいのだと思いました。他の CU 会員の皆さんはどうでしょうか？しっかり自然と向き合っていますか？日々の生活で精一杯だったりするとは思いますが、積極的に自然のある場所に出かけて下さいね。

<番外編>

そんな気持ちになった5月の月例会のあと、私はひとつの記事を目にしました。その一部には「思い浮かんだアクティビティ(活動)を並べるだけでは、キャンプのプログラムとしては今ひとつ足りない気がする。“何をするか”よりも“何のために”するのかを考えることが大切だ。」という文章がありました。

“何のために”が目的を表します。その目的は今回の勉強会の企画で出た「沢遊びを通して自然を体験し、いいところを見つける」という活動的な目的もありますが、「緊張感をなくしてもらおう」などの心情的な目的もあるのかなと思います。「花山キャンプ〇日目…キャンパーはどんな気持ちでいて、どうしてあげればいいのか？」ということも考える必要もあるのではないかと感じました。

今回のプログラムの発案活動の際、ばくさんが言いたかったのはこのようなことではないのかなと記事を読んで考え込んでしまったよっちゃんでした。

(よっちゃん)

○新メンバー加入☆

・石塚一康さん

はじめまして、そしてお久しぶりですという方もいらっしゃるでしょうか。僕は昭和55年、江川幼稚園からバラギキャンプへの参加が最初でした。僕にとって花山から得た物は計り知れず大きな物です。皆さんと一緒に幼少研を盛り上げて行きたいと思っています。宜しくお願い致します！

・伊藤大悟さん(ダニエル)

どうも一昨年の孺恋で卒業した、武蔵野大学の伊藤大悟です。花山には三年くらい行ってなくて登山とかのプランクとかが心配ですが…大学で山岳部に入ったので花山に行くまでには体力等を取り戻すため頑張ります!!今後ともよろしく願いいたします。



○キャンプフェスタ企画作成チーム隊員募集

9月22日(木)~25日(日)に行われる日本キャンプ協会主催のキャンプフェスタでの企画作成チーム隊員を募集中です!!興味ある方は以下の連絡先へご連絡下さい。詳細は第6回研修会合宿の内容に記載されています。責任者(仮の隊長さん):佐藤冬果(ふゆりん)

連絡先:佐藤冬果(ふゆりん)
(s0810697@u.tsukuba.ac.jp、08012118971)

OCUのHP管理隊募集

只今、よっちゃんと岡ちゃんて必死にブログを作成中です。パソコン機能の新たな一面が見られるブログ作り…是非、今後、HP管理を一緒にしていただける会員さんをお待ちしております。興味がある方はよっちゃんまでご連絡下さい。

宛先: s0812009@u.tsukuba.ac.jp(中川佳美(よっちゃん))

OCU写真共有サイト開設☆

新メールアドレスの設置に伴い写真配信サイトであるフォトゲットのパスワードを以下の通り変更しました。フォトゲット

<http://photoget.jp/>

ID: info@yoshonencamp.com

PIN: パスワードはメールに記載されています。

○月例会内容企画の募集

前期の月例会企画内容は3月の月例会で決定しましたが、要望内容によって変更も可能です。後期の企画にも反映していきたいので、「これがやりたい!」という内容がありましたら、気軽に要望を以下の宛先へお送り下さい。

宛先: s0810697@u.tsukuba.ac.jp(佐藤冬果)

○ニュースレターの文章募集★

現在、広報担当の中川がニュースレターの内容を作成しています。私のコメントばかりではそろそろ飽きてくる頃ではないでしょうか?(文章力もないですし…)

そこで、ニュースレターの載せたい「月例会の感想」、「ニュースレターの最後のつばやき部分」「書籍紹介」などがありましたら、中川までご連絡下さい。お待ちしております。

連絡先: s0812009@u.tsukuba.ac.jp(よっちゃん)

OCU名簿作成

第2期新規メンバー加入が一段落したところで、CUメンバーの名簿を作成しようと思います。名簿には氏名、所属、メールアドレスを公開します。もし未公開の希望がありましたら事務局までご連絡下さい。

PROFESSIONAL
OPPORTUNITIES

○2011年6月月例会

6月月例会を次の通り開催します。

日時: 2011年6月26日(日) 13:00~18:00

場所: 幼少年キャンプ研究会事務局

(つくば市大曾根 3765-4/つくバス北部シャトル大穂庁舎下車徒歩5分)

内容: レスキューテクニック。できれば使いたくないが備えあればうれいなし。花山でキャンパーが生き生き(やりたい放題)できるのは、カウンセラーのものもの時の覚悟と技術があるからです。ロープを使った危機場面の回避の仕方、トラブルからの脱出方法を練習します。

出欠: 6月22日(火)までに佐藤冬果(080-1211-8971/fuyu-sato.0103@docomo.ne.jp)に必ず出欠の連絡をして下さい。

○今後の月例会・研修合宿の予定

・7月月例会

7月24日(日)を予定しております。内容は、筑波山でナビゲーション(地図とコンパス)の練習をします。

・8月月例会

花山キャンプ中のため行いません。

・第5回研修合宿

日程:7月16日(土)~18日(月・祝)

主催:幼少年キャンプ研究会カウンセラーユニオン

場所:槍ヶ岳・穂高

宿泊:涸沢・槍ヶ岳山頂付近でテント泊
(混み具合で変更有)

対象:CU会員、その友人

内容:槍・穂高の縦走登山

初夏の槍・穂高を思いっきり歩いてみませんか?

※今回、スキルトレーニングなどは予定していませんが、参加者の中で希望があれば、検討いたします。

予定:1日目 移動、涸沢まで登山

2日目 涸~槍ヶ岳山頂

3日目 槍ヶ岳山頂~下山、温泉、移動

集合場所:上高地バスターミナル 7:00 集合

※上高地までの高速バスはあります。

※つくば組は人数によっては車で行く可能性がありますので、問い合わせして下さい。

※電車で来られる予定の方は一度、ご連絡下さい。

参加費:5000円程度(食費・保険料等)※交通費別
※人数によって変動します。

持ち物:ザック(60L)、トレッキングシューズ、シュラフ、防寒着、雨具、ヘッドランプ、水筒、着替え等の生活用品

※ザック等の装備に関してはレンタルの相談に乗ります。1アイテム500円でのレンタルが可能です。

締切日:6月30日(木)

連絡先:中川佳美(よっちゃん)

(08036605841・s0812009@u.tsukuba.ac.jp)



槍ヶ岳

・第6回研修合宿

キャンプフェスタ参加

日程:9月22日(木)~25日(日)

主催:社団法人 日本キャンプ協会

場所:静岡県朝霧野活動センター

対象:誰でもOK

宿泊:テント泊

参加費:9800円

企画:このキャンプフェスタは様々な団体などが企画を提案し、キャンプを構成していきます。そのため、CUとして何か企画を出したいと思っています。

企画は75分/1セッションとなります。

CUから一言:野外活動を行っている様々な方が集まるため、他の団体がどんなことをしているのかわかるキャンプになると思います。視野がまたひとつ広がるチャンスですので、是非、参加して見て下さい。

キャンプフェスタ説明:

1861年にフレデリック・ウイリアム・ガンが北米コネティカット州で始めた組織キャンプは今年で150周年を迎えることとなりました。また、日本にキャンプがやってきてから90年の時間が流れました。

キャンプは自然の中で営まれ、そこで展開されるさまざまな活動がキャンパーに様々なインパクトをもたらし、一生ものの体験として一人ひとりのキャンパーの成長を支えてきました。一方、このようなキャンプを導く人々の集いとして発足したのが「日本キャンプ協会」であり、今から45年前の1966年に東京に設立されました。

日本キャンプ協会は、常に今という時代に必要とされるキャンプを追及しながら「Camping for All(すべての人々の間にキャンプを)」の願いのもとにキャンプの普及活動を続けてきました。

今年で45周年を迎える日本キャンプ協会は「Gift for the Next 100 Years」というスローガンをかけ、次世代への贈り物として新しいキャンプを提案していきたいと願っています。

新しいキャンプのはじまりを予感させる「キャンプフェスタ 富士・朝霧」に全国から集まりましょう。

キャンプフェスタの詳細:

日本キャンプ協会のHPをご覧ください。

・花山キャンプカウンセラー&インターン募集

今年度の花山キャンプの日程が以下のようになっています。予定があれば、是非、挑戦してみてください。キャンプは経験すればするほど、成長します!!

・先発(準備隊):7月29日~31日

・Aコース:8月1~6日(5泊6日)小学4~6年生

・Bコース:8月8~12日(4泊5日)年長~小学3年生

・Cコース:8月17~23日(6泊7日)小学5年生~高3

・Dコース:8月25~29日(4泊5日)|小学2~4年生

※詳細は幼少年キャンプ研究会HPをご覧ください。



花山キャンプ場

・ジョモニック冒険キャンプ登山指導研修指導者募集

埼玉県で活動するサッカースクールが運営するキャンプの指導者講習会です。2007年に幼少年キャンプ研究会のサポートでスタートし、以来スタッフ派遣、プログラム開発を行っています。

目的:登山技術の習得、
夏の登山コースの下見
スタッフの交流

日程：7月2日（土）～3日（日）
 場所：埼玉県両神キャンプ場及び四阿屋山周辺
 対象：ジョモニックサッカースクールコーチ
 内容：ナビゲーション、レスキュー、登山計画等
 講師：1名募集
 締切日：6月26日（日）
 連絡先：事務局（岡村） taito@mail2.accsnet.ne.jp

○書籍紹介

「別冊ランドネ
 アウトドアガールズFile
 最旬アクティブガールの着こなし大集合!!」
 出版社：樫出版

RESOURCES

さて、今回これをご紹介するのはよっちゃんが皆さんに「山ガールファッション」をオススメするためではないですよ(笑)
 この本の中に我らCU会員の「“けんけん”こと豊田北穂さん」が載っているからです。
 見つけた時は「おっ!!」と思ったと同時にけんけんも山に出かけているのだなと嬉しくなりました。



ぜひ、この雑誌を見つけたら見て下さい。
 ついでに、山ガールのファッションも勉強できますよ!!
 (よっちゃん)

先日、神奈川県のある山に一人でプチハイイクに行ってきました。私が住んでいるつくばから2時間ほどでいける山です。ハイキング中にすれ違う方はほぼ中高年の夫婦でした。やはり中高年の登山者は増えているのだなと感じました。そして、私もいつかそんな夫婦になりたいなとも考えてしまいました(笑)

でも、まずは今ですね!!一人で登っていると、すれ違うご夫婦に「若い子とはめずらしいね!!それも一人で!？」と驚かれました。山ガールや山ボーイ?が人気になっているといいながら、実際、山に登る若者は少ないのではないのでしょうか?(私自身の意見ですが…)今回、感じたことはもっと積極的に自然へ出かけていかななくてはということです。意外と身近に日帰りや一泊にはちょうどいい山がたくさんあるはずですよ。この神奈川県の山もあるCU会員の实家からすぐ近くにあるんですよ。でもそのCU会員は登った記憶がないとか…。私も実家の近くにいい山があるのかも知れません。近くにあるほど気付かないものですから。山が多い日本ですので、皆さんの地域にも絶対あると思います。ぜひ一度身近な山を探して登ってみてください。
 (よっちゃん)

FROM
THE
EDITOR

